

第1回総合教育会議

日 時 令和元年10月29日(火) 午後3時30分～午後4時27分

場 所 前原暫定集会施設 A会議室

出席者 17人

総合教育会議構成員

市長 西岡 真一郎

教育長 大熊 雅士

教育長職務代理者 鮎川 志津子

教育委員 福元 弘和

教育委員 浅野 智彦

関係者

学校教育部長 大津 雅利

生涯学習部長 藤本 裕

庶務課長 松井 玉恵

学務課長 河田 京子

指導室長 浜田 真二

生涯学習課長 関 次郎

オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 内田 雄介

図書館長 菊池 幸子

公民館長 林 文男

庶務課係長 中島 憲彦

児童青少年課長 鈴木 剛

児童青少年係長 前田 裕女

事務局

企画財政部長 天野 建司

企画政策課長 梅原 啓太郎

企画政策課係長 古賀 誠

企画政策課主任 金原 真紀子

企画政策課主事 鎌田 莉央

欠席者 岡村 理栄子 教育委員

傍聴者 0人

(午後3時30分開会)

◎西岡市長 こんにちは。ただいまから令和元年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本日の進行につきましては、会議の主宰であります私が務めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。着座にて失礼いたします。

本日はお足元の悪い中、また、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、教育長、教育委員の皆様には、日頃より小金井市の教育行政に多大なる御尽力をいただいていることに心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

本日は元号が令和となって初めての総合教育会議となります。気持ちを新たに、今年度の教育行政の進捗状況や、小金井市の教育について委員の皆様から忌憚のない御意見を賜りたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

時間も限られておりますので、早速、次第に沿って議事を進めてまいります。

はじめに、議題第1号、東京2020オリンピック・パラリンピック大会についてを議題といたします。教育委員会から説明を求めます。

◎大津学校教育部長 まず、学校教育部から、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に関する取組を説明いたします。

市立小・中学校では、平成26年度からオリンピック・パラリンピック教育を進めてまいりました。東京都教育委員会作成の副読本を活用し、平成28年度からは全校で年間35時間を教育課程に位置づけました。各教科、道徳、総合的な学習の時間等にオリンピック・パラリンピックに関する学習を取り入れ、発達段階に応じて、段階的に学習を進めてまいりました。

具体的には、オリンピック・パラリンピック大会の選手を招いて、講演や交流を行ったり、様々な国の歴史や文化を学び、日本とのつながり・協力を考え、国際理解を深めたりするなど各学校の実態に応じた取組を行いました。

東京都の支援により、来年度のオリンピック・パラリンピック大会本番では、市立小・中学校の全児童・生徒が観戦することができます。これまでのオリンピック・パラリンピック教育の集大成として、児童・生徒の安全に配慮しながら実施したいと考えております。引率に当たっては、熱中症対策を十分行うようにしてまいります。

◎藤本生涯学習部長 続いて、生涯学習部から、東京2020大会に関して、報告いたします。

本年7月21日(日)、東京2020大会の自転車ロードレーステストイベントを実施しました。当日は参議院選挙が実施されたことから、教育委員会の職員で対応するとともに、多くのボランティアにもお手伝いいただきました。さらに、沿道には多くの観戦者がお見えになり、そのような中で選手たちは無事に市内を通過していきました。

今回行われたテストイベントは、来年度に行われる本大会に向けた課題抽出が主な目的です。そのため、教育委員会では、当日参加された職員とボランティアに、来年度に向けたアンケートを実施しております。アンケートでは、休憩場所や資機材置場に関すること、人手不足など

が指摘されております。

また、レースが行われる時間帯が日中であることから、熱中症対策を施してきました。小金井消防署の御協力のもとで対策の講座を行い、冷却タオルを手配するなどしました。

教育委員会では、アンケートで指摘された課題解決に努力するとともに、引き続き熱中症対策など、予想される事態に備えていきたいと考えています。

次に、聖火リレーです。

来年の7月15日（水）に聖火リレーが小金井市にやってくる事が発表されております。しかし、ルートやランナーなど、現状では未定のものが多い状況となっております。

一方で、沿道整備を始めとして、多くの職員やボランティアに御協力いただかなくてはならないと考えているところです。

教育委員会では、本年9月22日（日）に「青少年のための科学の祭典」で義足体験会を実施しました。また、10月14日（月）には、総合体育館でバーチャルロードレース、車いすレーサー、ボッチャなどを体験していただく「スポーツフェスティバル」を実施しました。両日ともたくさんの方々に御参加いただき、オリンピック・パラリンピックにちなんだ体験をされることで、「貴重な体験ができてよかった」との感想をお寄せいただいております。

また、今後は地域の事業所やスポーツ団体などにも参加していただく連携協議会を立ち上げ、市役所とそれらの団体で協力しながら東京2020大会の機運醸成を図っていききたいと考えております。

◎西岡市長 ありがとうございます。ただいま事務局からの報告が終わりました。それでは、委員の皆様から御意見、御感想を、ぜひお聞かせいただきたいと思っております。

◎福元委員 これまで、オリンピック・パラリンピック教育では、例えば、ある学校では、小金井市の観光大使である車いすバスケットボール選手の小田島さんを招いて、子どもたちと交流する機会が設けられました。子どもたちは講演を聞くだけでなく、車いすを使った体験会などを行って、障害者との共生について理解を深めたと聞いております。このような取組はオリンピック・パラリンピック大会が終わっても続けてほしいと思っております。

また、大会観戦では、小学校低学年は、主に室内での観戦であったり、引率者を増やしたりするなどの様々な配慮をしていただけると聞いています。ぜひ、子どもたちにとって、素晴らしい思い出となることを願っています。

◎浅野委員 自転車のロードレースのことについてですけれども、市内は約1.8キロメートルということで、長い距離とはちょっと言えないかなとは思いますが、オリンピックの競技が市内にやってくるといふこと、あるいは、世界のトップアスリートを目の当たりに見ることができるといふこと、そういった意味で大変意義深いものであるというふうと考えております。同時に、説明にもありましたとおり、多くの方々の御協力があつて実現されるものですので、御協力いただく皆様には感謝を申し上げたいと思っております。

テストイベントのほうですが、残念ながら、私、参加はできませんでした。ただ、大変よい

雰囲気の中で行われたと伺っております。

教育委員会としては、引き続き機運醸成、それから、大会の成功に向けて取組を続けてまいりたいと思っておりますので、ぜひ、多くの市民の方々にお越しいただいて、沿道で、暑さに注意しつつ、応援をしていただきたいと考えております。

◎**鮎川教育長職務代理者** 先日、小金井市にゆかりのある日本郵政の鈴木亜由子選手がオリンピック出場に内定されました。大変うれしいことで、本大会でも実力を出し切っていただきたいと、応援をしております。そして、大会が迫っていることを実感しております。

先ほど部長からの御説明にもありましたが、青少年のための科学の祭典での義足体験会、ブースの前に課長がいらっしゃり、温かくお迎えくださったので、ゆっくり拝見することができました。総合体育館でのスポーツフェスティバルでもパラリンピックのシッティングバレーや様々な競技が行われておりまして、子どもたちが参加している姿を見ますと、いよいよ間近にオリンピックが迫ってきていると実感されます。

一方、そのような大会が迫る中で、先ほどの御説明にもありましたが、まだ決まっていないことも多く、さらに、世紀のイベントということで手探りのところも多く、業務を進めるに当たっては様々な御苦労があることと推察いたします。

先ほどの浅野委員のお話にもありましたが、自転車のロードレースのテストイベントは大盛況で、宣伝をしていなかったと思いますが、多くの方々が歩道にあふれるほどいらっしゃいました。テストイベントですら、多くの方々が集まってくださるということで、交通規制があり、拝見した後、東八道路ではふだんの何倍もの時間がかかって帰るような状況でした。本番ではもっと多くの方々が観戦にいらっしゃることを考えますと、いろいろなことを考えていかなくてはいけないと思っております。

教育委員会といたしましては、大会成功のために一丸となって進んでいきたいと考えておりますので、市長部局の皆さんにも、教育委員会に惜しみない御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

◎**西岡市長** 3名の委員の方々から大変貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございます。ありがとうございました。

皆様御承知のように、本番まであと1年を切りました。いよいよ1964年以来、2回目の東京オリンピックも目前に迫っています。私といたしましては、開催地である東京都の自治体として、オリンピック・パラリンピックの機運醸成や取組に努力をしていきたいと思っております。何よりもレガシーですね、有形、無形のレガシーを残していくことがとても大切だと思っています。

取組内容についてですが、一つは、小金井市ゆかりの選手の応援というのがあります。

もう一つは、これは大変大きなことでもあります、ロードレースコースであるということで、小金井市域についてしっかりその役割を担うとともに市民の方々にしっかり見ていただく、大会を成功に導くということです。

また、聖火リレーにつきましても、62市区町村全てを15日間で回り終えるというスケジュールの中、小金井市は7月15日でございます。この聖火リレーには、たくさんの市民、特に子どもたち、また、小金井市で学ぶ学生さん、あらゆる世代の方々に見ていただいて、その記憶を将来ずっと残しておいていただきたいと思いますと思っております。

また、非常に重要だと思っているのは、オリンピック・パラリンピック教育ですね。年間35時間の時間を作っているというので、私も時折見学に行きますが、オリンピック・パラリンピック教育というのは、多様性であるとか、共生社会であるとか、国際相互理解であるとか、オリンピックの理念に基づいた、オリンピック憲章に基づいた平和の精神というものを学べる。また、トップアスリートから人生観やすばらしいことを学べる機会なので、このオリンピック・パラリンピック教育にもしっかり取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

また、交流人口、インバウンド、国際的な交流促進などにもつながってくるだろうと思えますし、小金井市でも、江戸東京たてもの園などは、既に外国人の方が多く来られております。こうした様々な取組がこれから求められているところであります。

今は、小金井市の教育委員会生涯学習部を中心にリードしているところでありますが、私のほうといたしましては、このオリンピック・パラリンピックについては、所管は決まっているものの全庁を挙げて取り組むということを常々申し上げておりますので、しっかりとその取組を果たし、何よりも小金井市らしいレガシーをしっかりと残していきたいと思えます。

また、先日は鈴木亜由子選手が市長表敬訪問にお越しくださいました。マラソンで日本の女子代表に内定したということは、大変うれしいことであります。小金井市としても在住在勤、毎朝の練習場所も小金井公園でありますので、本当に誇らしいこととございます。市をあげて鈴木亜由子選手を応援していただきたいと思いますと思っておりますし、またこの後、オリンピック・パラリンピックと小金井市にゆかりのある選手がまだまだ誕生することを、大いに期待しておりますので、皆さんとともに応援してまいりたいと思えます。

安全対策ということもとても重要だと思っております。東京2020オリンピック・パラリンピック大会については、東京都のみならず日本全体で盛り上げていくべきものであり、本市にとっても、今年度から来年度にかけて大きな取組と考えております。

今後も引き続き、大会の成功に向けて、そして小金井らしくレガシーを残せるよう教育委員会と協力して取り組んでまいりたいと思えますので、よろしく申し上げます。

続きまして、議題第2号、学校及び社会教育施設の個別施設計画についてを議題といたします。

前回の総合教育会議でも取り上げさせていただきましたとても重要な課題です。教育委員会所管の学校及び社会教育施設は、本市公共施設全体の延べ床面積の約7割を占めるところで、将来人口の動向に合わせた総量抑制に努めることを基本目標としている小金井市公共施設等総合管理計画において、大変重要な位置を占めるとともに、公共施設マネジメントの推進にも大きな影響を与えるものと考えております。

国からは、令和2年度末までの個別施設計画の策定並びに令和3年度末までにはそれらの計画を反映する形で公共施設等総合管理計画を改定することが求められております。この件に係る進捗について、教育委員会から説明を求めます。

◎**大津学校教育部長** それでは、公共施設総合管理計画に基づく個別施設計画のうち、学校施設の状況について御説明いたします。

小学校9校、中学校5校の計14校の市立小中学校の施設について、中長期にわたる整備・保全等の方針を定めるため、学校長寿命化計画の策定が文部科学省から求められております。

市全体の公共施設の58%を占めている学校教育系施設の中でも、学校施設は、延べ面積が約10万4,000平方メートル、築30年以上の施設が約9割となっており、市全体の公共施設の老朽化対策を推進する上で、重要な位置づけとなります。

市が設置した公共施設等総合管理計画策定推進本部の下部組織として、学校施設部会を立ち上げ、現在、庁内関係部署の協力を得て、計画策定に向けた検討を進めております。

今年度は、老朽化の現状を調査し、14校の建物の整備の優先順位に関する検討の基礎資料を作成しております。

また、計画策定に先立ち、来年度の早い時期に、小学校の1学年及び中学校の1学年、併せて2学年分の保護者の方を対象にアンケート調査を実施し、保護者の方が学校施設に望むことや考えを把握し、学校の在り方を検討する基礎資料といたします。

計画には、学校の現状及び将来像として、学校施設の目指すべき姿、学校施設の運営状況・活動状況の実態をお示しするほか、今後の児童数の増加を見据えて、学校の適正規模に応じた通学区域の在り方など、学校施設の規模・配置計画の方針を示してまいります。

学校施設の目指すべき姿としては、教育行政の将来像の実現に必要な機能を整理します。現在、学校教育に支障のない範囲で地域の文化・スポーツ活動に開放しているほか、マンホールトイレなど、地域の避難所としての機能も順次整備しておりますので、防災等の観点を含め地域の拠点化の視点を踏まえて、まとめていきたいと考えております。

次に、改修等の基本的な方針を整理しますが、基本的な方針に基づいた施設整備の水準等については、建築などに関する専門知識をベースに、建物の耐久性、安全面、機能面、環境面などを軸として、学校施設の部位ごと又は機能ごとの整備水準を整理してまいります。

学校施設長寿命化計画は、学校教育の将来像の実現が可能な建物の在り方を探り、かつ、中長期的な維持管理に関する方針を示し、今後の維持管理・更新コストの平準化を図ることが計画の主たる目的でございます。

したがって、公共施設等総合管理計画と同様に、計画期間は概ね30年程度を想定しておりますが、学校施設は老朽化が進んでおり、対策が必要な状況ですので、併せて、直近10年間の具体的な整備計画についても検討してまいります。

改修や改築など長寿命化対策には、かなりの財源を要してまいりますので、市の関係部署と十分協議の上、児童・生徒の安全を確保し、かつ、快適な学びの環境を整備することに努めて

まいりたいと考えてございます。

◎**藤本生涯学習部長** それでは、生涯学習部からは、所管する社会教育系施設及びスポーツ・レクリエーション系施設について、説明いたします。

生涯学習部では、図書館や公民館、また総合体育館さらに清里山荘など、様々な年代の多くの市民などの方に長い間御利用いただいている施設について所管しており、延床面積はおよそ2万4,000平方メートルで、市の公共施設等の約13%を占めております。

個別施設計画においては、将来の小金井市としてのまちづくりや人口動向、社会情勢等の変化を見きわめた上で、それぞれの施設の現状を踏まえた今後の適正配置の方向性や計画的な修繕等の実施体制などを策定していくものと考えているところでございます。

生涯学習行政を司る私たちとしましては、人生100年時代を見据えた政策展開がこれから求められるところであり、市の公共施設の約1割を占める社会教育・スポーツレクリエーション系施設は、これまでも人々が地域で生き生きと暮らしていくための一助となってきたところであり、これからの長い人生をその人らしく生活していくためにも必要不可欠な存在だと考えます。

これから人生100年時代を迎えるにあたって生涯学習施設の在り方を見定めていくためにも、まずは、個別施設計画で、施設の在り方・適正な維持管理など根幹的な考えをきちんと整理していきたいと考えております。

◎**西岡市長** ただいま、事務局からの進捗についての説明が終わりました。本件につきまして、御意見や御感想等がありますればお聞かせいただきたいと思っております。

◎**鮎川教育長職務代理者** 学校施設につきましては、築30年以上の建物が多く、どちらの学校でも雨漏りなどが見られる状況だと聞いております。

学校公開で学校に行ったときに雨が降っていると、ほぼ確実に雨漏りの状況が見られます。最上階だけではなく、例えば、第二小学校では、玄関を入ると、目の前で雨漏りがしていて、上に階があるのになぜ雨漏りがするのか、構造的な問題は分かりませんが、実際に拝見しております。また、あちこちの学校の壁や天井に雨のしみが残っているような状況ですので、どちらの学校でも御苦労されていることと思っております。

毎年、計画的に屋上防水工事などを進めていただいておりますが、費用面などでの課題があり、なかなか進まないのが現状だと思います。学校施設の長寿命化計画が策定され、老朽化のための大規模な改修工事や改築工事などが、より一層進むものと期待しております。

また、トイレの洋式化についても、なかなか進まないという御指摘があると聞いております。多額の財源を要するとは思いますが、学校施設は、学びの場であるだけでなく、子どもたちが長い時間を過ごす場でもあります。これについては、一日も早く快適な環境に整備できるようにお願いいたします。

排せつは健康に直結する問題であること、子どもに衛生的な環境を確保することは何よりも大事なことです。バリアフリー環境の整備という点では、多機能トイレの整備も進めていただ

きたいと思います。いろいろな身体状況のお子さんがともに学べるよう心を尽くしていただければと思います。

また、先日の台風19号でも、学校が地域の避難所とされました。先ほど、学校施設の目指すべき姿として、地域の拠点化を視点として盛り込むとの御説明がありました。

被災した際には、行政だけでなく、地域の皆様の力が必要となります。より一層の協働をお願いいたします。

また、大規模災害発生時には、地域の皆様の避難所として使用されますが、避難所のトイレの整備についても視点として落とさないようお願いいたします。これらの必要な機能については、長寿命化対策に先行してでも、速やかに整備することが重要だと考えております。

なお、避難所として使用される体育館から一番近いトイレに行くためには、階段を上り下りしないとまらない学校もあると聞いています。この問題は、大規模改修でしか解消できないと思いますので、よろしくをお願いいたします。

また、子どもたちへの学校給食の提供について、児童数が増加していく中で、給食の提供数が増え、いくつかの学校で給食調理室の改修工事が必要になったと聞いております。子どもたちにとって給食は何よりも楽しみなことですが、各校に配置された栄養士が栄養のバランスを考えて、体の成長に大切なことだと思います。適切な整備をお願いいたします。

学校の将来像というと、ICTなどの新しいキーワードが多く聞かれますが、義務教育の果たすべき原点は、生きる力の育成にあると思っております。

子どもたちが、ともに学び、考え、判断し、行動できる力の実現は、生活者としての教育、将来発揮すべき能力を高める教育、体験を通じて考えを組み立てていく教育だと思います。

子どもたちが自然と触れ合う喜びとか、音楽などの情緒教育といった教育の原点を忘れずにいてもらいたいと思っております。

このような教育が実現できるような施設の多様な在り方についても、視点として落とさないようお願いいたします。

◎福元委員 学校教育については、平成30年度に校務用パソコンの一斉更新がなされたところですが、教職員の事務の効率化に大いに寄与したと感じております。

ICTなど喫緊の課題を導入するにあたって、設置環境である建物を整備することも、教育環境の実現のため、大事な問題だと受け止めております。

学校の建物管理は建築などの専門知識に基づいて、一つ一つ丁寧に整備してもらうことになり、根気のいる仕事だと思います。老朽化が指摘されているところですので、適切な対応をお願いいたします。

小金井市内の各学校の配置は概ね適正だと考えておりますが、近年は児童数も増加傾向にあるようです。学級編制が変われば、普通教室は適切に対応されると思いますが、特別教室の数を必要以上に設置するのではなく、教室の使い方も創意工夫していくべきだと考えるところで

先ほど防災に関する意見が出ましたが、地域と学校がともに発展できる環境の整備に着目していくことが重要だという点で、学校施設の更新の際には、用途を限定せずに、柔軟な使い方ができるような施設の在り方について研究してもらいたいと考えております。

現在の学校施設は、概ね昭和40年代に建設されたものが多いと聞いています。最近の課題として、当時作ったロッカーに現在の教科書が入らないということも起こっていると伺っております。

この場合、ロッカーの大型化ということに視点が行きがちですが、学校施設の更新に当たっては、従来型の考えで教室を作ったり、物を置くスペースを作ったりというようなところに発想を置きすぎるのではなく、ICT環境がより一層進む中で、新しい教育活動に応じる機能の充実が実現できる、そういう施設の在り方に着目してもらいたいと思います。

◎浅野委員 私からは、生涯学習等の施設について、若干、所見を述べさせていただきます。

人生100年時代というお話が先ほどありましたけれども、まさに長い人生を小金井という地域で充実して過ごしていくためには、生涯学習施設は必要不可欠であると我々としては考えております。しかしながら、教育委員会所管の施設の9割弱が、という話を先ほどから繰り返しているわけですが、老朽化の一般的な目安とされる築後30年を既に経過しております。計画的な老朽化対策に取り組む必要性を我々としては強く感じているところであります。

教育委員会としては、個別施設計画をまずは策定することで、施設の在り方、状況などをまずしっかり把握し、未来に向けた生涯学習施設の在り方を検討していくことであります。それを通じて、優先的に整備しなくてはならない施設の状況を把握することが可能になると考えておまして、計画的な修繕・改修に向け、それが大きな一歩を踏み出すことになると、そんなふうに認識しております。

生涯学習に係る施設というのは、市民要望や期待がダイレクトに届く施設ですので、時代の変化に応じた施設の在り方を工夫し続けていくことが必要になるだろうと理解しております。

また、先ほど鮎川委員からも御発言がありましたように、学校につきましても、学区域の在り方が以前より課題となってきたわけですが、児童数の変化に施設の在り方が影響を受けるということがあると思いますので、その点も含めて整備していく必要があるかなと考えております。

総じて言えば、市全体として公共施設の配置や施設の持ち方等を広い視野で検討していく必要があるのだろうと考えております。様々な可能性について検討し、市長部局と教育委員会の双方が、連携・調整を密に図りつつ、今後も進めていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎西岡市長 ありがとうございます。各委員の皆様方からは非常に重要なたくさんの御指摘や御意見をいただいたと思っております。今、本市が抱えているたくさんの課題の中で、この老朽化した公共施設への対応などは極めて重要な課題でございます。とりわけ、6割近くを占めるのが教育関係の施設であり、そのうち多くの施設が30年以上経過しているという状況にあ

ります。

小金井市が策定いたしました公共施設等総合管理計画の理念に基づき、今後、個別計画を策定していくこととなります。来年度にはしっかり策定を終え、そしてそれを公共施設等総合管理計画にも反映していくという状況であります。

小金井市の特性として、全国的な傾向と違いますのは、全国では少子高齢化がものすごい勢いで進展しておりますが、ここ小金井市にあっては、当面、人口は全体的に微増傾向が継続していく見込みです。そして、ファミリー世帯を中心に転入超過の状況がありまして、併せて子どもたちの数、特に小学生の数は、東京都教育委員会の見通しでは、以前教育長が市議会で発表されておりましたけれども、5年後19.1%増というデータがあります。これは、多摩地域でトップのデータであります。

それに基づくと、教室の数、公立小学校9校での相当な数の普通教室を準備していかなければいけない。そういう状況に対応しながら、老朽化対策もありますし、また、ニーズが高まっている放課後の居場所、学童保育の大規模化や、併せて放課後子ども教室の充実など、いろいろな複合的な課題が目の前に直面しているというのが、今の状況ではないでしょうか。私にはそう見えています。小金井が直面しているそういう状況をしっかりと乗り越えていくための計画を、見直しを持って策定していく必要があります。

加えて、防災拠点、地域の拠点ということで、今後はやはり学校という敷地内に校舎が今までのようにあるだけでなく、その地域のニーズや公共施設の老朽化問題なども踏まえつつ、学校施設の中に拠点として、やや複合的な視点も兼ねた検討ということも必要になってくると思います。

さらに、その中に、学区域の見直しというものも出てきていると思っております。ですので、非常に今、私たちの目の前には、複合的な課題と現状、併せて短期、中期、長期の予測も必要になってくると思っておりますので、そういったことにしっかりと目を向けて取り組まなければいけないですし、それを乗り越えないと、将来、小金井市を次世代へバトンタッチできないことになってしまいます。財政的な課題も、財源確保、もちろん国や東京都などの補助金制度を活用するのも最大限必要となってきますけれども、後世に負担だけを残すことはできません。ですので、財源の確保や平準化された将来の財政、起債の活用も含めて検討していかなければならないことだと思っております。

先ほど述べたとおり、公共施設につきましては、今後の総人口の減少や少子高齢化等によるサービス需要の変化に的確に対応していくために、公共施設の多機能化・複合化を積極的に推進していく必要があると考えており、老朽化対策や長寿命化対応などに加えて、時代の変化に適応した施設の在り方についての整理も必要となってまいります。

つきましては、個別施設計画の策定に当たり、学校教育施設と生涯学習施設の在り様などについて教育委員会内で適切な整理に努めていただくとともに、学区域の見直しも併せて進めていただくことが肝要と考えます。

その上で、市長部局と教育委員会の双方が、連携・調整を密に図りながら、柔軟に進めていくことが、公共施設マネジメントの推進、ひいては市内公共施設の最適配置につながっていくものと考えております。

なお、御承知おきのことと思いますが、現在、小金井市では、新庁舎、（仮称）新福社会館建設の基本設計を鋭意進めております。今後、市域の中心部にございます庁舎建設予定地に庁舎機能の全て、旧福社会館のほぼ大半の機能、そして市域の西側に展開してございます保健センターの中にある全て、この機能を庁舎建設予定地に集約化をいたしまして、複合施設として建設する方針を決定いたしました。その方針に基づいて、鋭意、基本設計を進めているところであります。

小金井市としては、大事業でもありますし、これほどの複合化施設はかつて経験したことがない施設になりますが、こういった経験も今後の老朽化した施設展開に大いに生かしてまいりたいと考えているところであります。更なる皆様方からの御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、議題第3号、小金井市子どもの権利に関する条例についてを議題といたします。

市では、「子どもが生き、暮らし、活動する場で、市や市民その他の人たちが何をしたらよいかを定めることにより、子どもの権利の保障を図り、すべての子どもが生き生きと健やかに安心して暮らせるまち小金井をつくることを目指して」、本条例を平成21年3月に施行し、今年制定から10年が経過したところであります。

まだまだ認知度が低いというアンケート結果もあり、市では、この10周年を契機と捉え、今年度、様々な事業を展開しております。本件につきましては、担当から説明をお願いいたします。

◎鈴木児童青少年課長 それでは、小金井市子どもの権利に関する条例10周年記念事業につきまして、御報告させていただきます。

今年度の記念事業としては、大きく4つの事業により分かれてございます。

1つ目は、普及啓発事業といたしまして、本日配布させていただきましたが、条例周知カードを1万枚作成いたしました。教育委員会にも御協力いただき、市内の国立を含む小中学校、それから、都立高校にも夏休み前に配布させていただきました。

大きな点としましては、教育委員会に趣旨を御理解いただき、市長部局の相談機関である子ども家庭支援センターだけではなく、教育相談所についても、相談先として掲載させていただいた点がございます。

2点目は、条例で定める育ち・学ぶ施設及び市役所職員向けに庁内研修会を行いました。当日は工学院大学の阿部芳江准教授を講師に招き、公立保育園、学童保育所、児童館職員と、子ども施策に関係する所管部署で構成している子どもの権利条例検討部会員を対象に7月2日に開催いたしました。

3点目は、ちょうど2日後までに取組を小中学校にお願いしているのですが、市長が会長を

務め、教育長にも委員となっただいただいている青少年問題協議会におきまして、子どもアンケートを実施させていただいております。

これは、条例制定前に、生活実態調査という形で行ったアンケートがございまして、そのときと10年経った現在と、子どもの権利に関する実態がどのように変化しているのか、子どもの実態を把握する目的で行っております。

この結果につきましては、今後、委員の任期中に議論を行い、リーフレットのような形で分析結果から得られた青少年問題に関する啓発内容をまとめ、全小中学校へ配布するとともにホームページにも掲載する予定でございます。

約15年ぶりとなります大規模調査に、お忙しい中、御協力をいただきました教育委員会と現場の教職員の方々へ、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に4つ目、こちらはこれから開催することになりますが、子どもの権利に関する条例10周年記念行事「じどうかんフェスティバル2019」というイベントを11月17日に小金井 宮地楽器ホールで開催いたします。

子どもの権利として大切な、意見表明の場として、ダンスや歌などの発表や、子どもの主張という形で、大人や世の中に言いたいことをステージから叫ぶ企画、あとは児童館での活動で準備してきた展示など、子どもたちが準備段階から主体的に関わって、イベントを作り上げてくれています。

また、当日は子どもの権利と子どもの育ちというタイトルで講演会を開催したり、地域で活動している市民団体や放課後子ども教室実行委員会などに御協力いただき、権利条例の啓発展示にも御協力いただく予定でございます。

御都合が合うようでしたら、ぜひお越しいただければと思います。

市では、今後も児童の権利に関する条例の趣旨に基づく、子どもの権利条例の普及啓発について、推進していく予定でございます。

子ども自身に対する啓発については、やはり学校教育に担っていただく部分は大きいと感じておりますので、学校の人権教育などの中で、また、社会教育においても、公民館の自主事業として子どもの人権講座を長年にわたり継続していただくなど、教育委員会においても、様々な機会を捉えて御協力いただいていると認識してございますが、今後お願いできればと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

◎西岡市長 それでは、委員の皆様から御意見や御感想等がありますればお聞かせいただきたいと思ひます。

◎鮎川教育長職務代理者 条例周知カードを見せていただきました。「キミがつらいとき、寂しいとき、何でも相談してください。」というすばらしい言葉のあと、教育相談所と子ども家庭支援センターの案内がありました。そしてこの裏に、カードを傾けて見ると、子どもの権利に関する言葉が見えるような仕掛けもされておりまして、子どもたちが興味を引くような工夫があり、大変ありがたく思っております。

ただ、私には仕掛けがちょっと難しく、実はヒントのとおりカードを傾けて矢印のほうから見ても1回で見つけることができず、部長や課長に教えていただきながら見ました。周りの大人にも聞いてみよう、と書かれているので、これが一つのコミュニケーションのきっかけとなると思ひまして、とてもすばらしいものを作っただけだと思ひました。どうもありがとうございました。

◎浅野委員 11月17日のフェスティバルの件、お知らせいただきましてありがとうございます。ダンス、歌等もあるということで大変楽しみにしています。また、子どもの権利に関する条例があるということは、小金井市民として私も誇らしく思っているところですが、当事者である子どもたちに、今後より一層の周知が図られていくことを期待しております。

先ほど御説明がありました大規模調査のことについてなんですけれども、定期的に非常に貴重な調査を行っていただき、リーフレットを作成・配布していただく等、我々としても大変ありがたく思っているところでもあります。今回は子どもの権利というテーマで調査をされるということなんです、その内容、設問等についてももう少し詳しくお聞かせいただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

◎鈴木児童青少年課長 先ほどのカードの説明についてなんですけれども、教職員向けには、案内も一緒に配って指導していただいているということも申し添えたいと思ひます。

浅野委員からの御質問でございますが、市では、小金井市子どもの権利に関する条例の制定から10年を経過し、そのころとどう変わったのか、子どもの権利について現在の子どもの実態を把握するというところで、青少年問題協議会におきまして、約15年ぶりとなる大規模な子どもアンケートを実施することとなったものでございます。

大きなテーマとしましては、子どもの権利ということになりますが、設問といたしましては、大きくは自己肯定感等の実態、悩みの実態、居場所・心の寄りどころの実態の3つのテーマから成り立っております。今後、この集計結果を分析し、小金井の子どもたちの実態をもとに、課題抽出と啓発内容をまとめていく予定でございます。

◎西岡市長 貴重な御意見等、ありがとうございました。

続きまして、議題第4号、その他を議題といたします。皆様から何か御発言ございますでしょうか。よろしいですか。

(発言なし)

◎西岡市長 それでは、最後に教育長から、本日の総括をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

◎大熊教育長 本日は、市長、教育委員の皆様、教育の課題について忌憚のない御意見をいただき、ありがとうございました。

私からは、はじめに、学校管理費における不適切な会計事務処理の件で、市政に対して不信感を抱かせる結果になってしまったことを、この場をお借りしまして、深くおわびを申し上げます。申し訳ございませんでした。

教育委員会としては、9月、10月をコンプライアンス遵守月間に定め、コンプライアンス遵守がしっかり実現できるようにしてきたところでございます。1日も早く信頼を回復できるよう、全職員一体となって業務遂行をしていく所存でございます。

そして、現在の教育課題のことについてでございます。これからの世の中は、人類がこれまでに経験したことのない激変の時代を迎えると考えております。まさに予想困難な時代になるということでもあります。同じことを繰り返す仕事は全てAI等を備えた機械に取ってかわり、20年後には何と現在の49%の仕事がなくなると言われる時代です。だからこそ、現代の子どもたちには、そのような時代であってもたくましく生きていくことができる力をつけることが今の教育に与えられた最も大きな使命であると考えます。

そのため、教育委員会といたしましては、授業改革、いじめ・不登校対策、地域連携を3つの本気として定め、教育改革を強力に推進していきたいと考えております。この新しい教育の在り方を推進するためには、教育委員会を挙げて協力してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

学校の施設のことに関してでございます。学校の施設は確かに老朽化してきております。しかし、学校訪問等で学校を訪れると、教室であるとか廊下はとてもピカピカに磨かれているというのが小金井の良いところではないかなといつも実感しております。しかしながらやはり、今現在、長寿命化計画を作成しているところでございますが、先ほどの委員からの指摘にもありましたように、雨漏り等も起こっている現状も把握しております。よって、長寿命化対策を待たずして対応しなければならないこともあると認識しておりますので、市の関係部署とも相談しながら対応してまいりたいと考えております。

それから、来年に迫りました東京2020オリンピック・パラリンピック大会については、先ほども何度も話が出ております、小金井市ゆかりのオリンピック出場が内定した女子マラソンの鈴木亜由子選手の活躍が予想されます。小金井市を挙げて応援したいというふうに思っています。また、自転車ロードレースのコースとして市内を通過することとなり、これも市を挙げて臨んでいきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

◎西岡市長 ありがとうございます。

本日の令和元年度第1回総合教育会議は、私にとって市長としての今任期最後の開催となりますので、少しお時間を頂戴いたしまして、発言させていただきたいと思っております。

先ほど教育長から学務課の不適切な会計事務処理について発言がございました。市長部局におきましても、これまで社会福祉委員への報酬誤支給問題などが発生しておりまして、職員のコンプライアンスの遵守について、私も重点的に改善すべき課題と捉えております。

現在、小金井市の市役所行政内部におきましては、副市長をトップに委員長、そして教育長を副委員長とするコンプライアンスの庁内委員会の立上げ準備を進めているところであります。

今後、市民に信頼される行政の実現に向けて、教育委員会とともに、一丸となって改善に向けて取組を進めてまいりたいと考えております。

そして、東京2020オリンピック・パラリンピック大会についてでございます。先ほど私の思いは述べさせていただきました。何よりも小金井レガシーを残していきたいと思っておりますし、大変すばらしいなと思いましたのは、全小中学校の子どもたちが競技に行けるというのは、これは非常に恵まれた環境にあるなと思っております。おそらくは生涯忘れることのない、記憶に残る経験となるのではないのでしょうか。また、ロードレース、聖火リレー、オリンピック・パラリンピックに伴う様々な交流、これから楽しみなことでもあります。

また、折しも2020年の夏は、武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業が竣工するときでもありまして、武蔵小金井駅南口のまちづくりと連動します。さらに東小金井駅北口の区画整理事業も令和元年度末になりますと事業費ベースでも80%以上の達成率になるという見込みでございますので、駅周辺のまちづくりも大きく進展をしているときにも当たります。ぜひ、市長部局と一つになりまして、オリンピック・パラリンピックの取組を進めてまいりたいと思っております。

最後になりますが、先ほど申し上げました学校等の施設への対応、それから来年度は、何と言いましても新学習指導要領のスタート元年ということにもなります。そういった折ではありますがけれども、この会議が私にとりましての今任期最後の開催となります。この総合教育会議の中で、皆様からいただいた御意見などが、今後反映され、更に改善されていくことを私としても期待しているところであります。

本日の議事の中で報告された事項は、いずれも大変重要な案件でございましたが、これまで協議してきた様々な案件につきましても、ぜひ今後も連携協力しながら取り組んでいきたいと考えております。

日ごろから小金井市の教育行政における課題に対し、真正面から取り組まれている教育委員会の皆様には、ここで改めて感謝を申し上げます。また、いつも精力的に地域を回っていただいているお姿を拝見しております。誠にありがとうございます。今後につきましても、引き続き皆様からのお力添えをお願い申し上げます。閉会の挨拶にかえさせていただきます。

以上で、予定した議題は全て終了いたしました。

これをもちまして、令和元年度第1回総合教育会議を終了いたします。

皆様、ありがとうございました。

(午後4時27分閉会)